

令和5年度 自己評価書・学校関係評価書

令和6年3月11日
真庭市立天の川こども園
園長 山本 久美子 印

1. 天の川こども園の教育保育目標

〈保育及び教育目標〉

様々な環境に進んでかかわり、いきいきと生活する子どもの育成

- 心も身体も元気な子ども
- 自ら考え行動する子ども
- みんなと仲良くする子ども

〈めざす天の川こども園像〉

- 園児が行きたいこども園
- 保育教諭が働きたいこども園
- 家庭・地域が通わせたいこども園

2. 本年度の重点目標（課題）

○今年度研究テーマ「心を動かす環境作り」

～楽しむ・考える・つながる～

- ・園児一人一人の発達を理解した保育教諭が、信頼関係をもとに、ゆっくと発達を見守りながら生きる力の基礎を培う。
 - ・身近な環境に興味関心を持って粘り強く関わり、自らの遊びを振り返って、主体的な学びに向かう力を養う。
 - ・保育教諭が養護性をもって園児を支え、園児は自己の気持ちをコントロールし、相手を思いやる対話的な力、人と関わる力を養う。
- 一人一人の心に寄り添った保育・教育の充実を図る。
- 天の川タイムを計画的にもち、異年齢児が交流する場をつくる。
- 小学校の児童と園児、職員交流の場をもち、安心して就学できる関係をつくる。
- 地域の方と交流し、故郷の良さや人の温かさを感じられる郷育をする。
- 家庭との連携を密に個々の発達に応じた援助をし、相談しやすい雰囲気づくりに努め、保護者が子育ての喜びを実感できたり共通理解のもと共に成長できたりするように子育て支援をすすめる。
- 要支援・要保護家庭に対して関係機関と協力し、情報交換や見守りを続けながら、必要な支援や援助を行う。

3. 園評価の個別評価

| 評価指標 | 考 察 | 園総合評価 | 評価委員評価 (学校評議員評価) |
|-------------------|---|-------|---------------------|
| 教育課程・指導計画 | 園児一人一人の発達を理解し、園のテーマである「心を動かす環境づくり」をベースに保育教育を展開した。楽しい保育の流れを作るための振り返りや会議を度々持つことができた。 | 3 | 4 |
| 行事 | コロナが5類に移行したことで、園の行事のすすめ方も少しずつ緩和されてきた。今後は、発達段階を踏まえた行事の在り方を見直していきたい。 | 3 | 3 |
| 組織・運営 | 職員一人一人が意識的に共通理解を図ろうとし、保育実践や研修などを通して、協働性を高めていくことができた。職種や雇用形態の違いによる難しさもあった。 | 3 | 3 |
| 学級経営 | 必要な時に3上3未会議を行い、ベテラン保育教諭と新人が共に学び合い、1年を通して季節や発達過程に応じた心を動かす環境を作ることができた。 | 3 | 3 |
| 特別支援教育 | 保育教諭はクラスの流れを作り、支援を必要とする園児が流れに戻れるような保育に努めた。関係機関との連携もとりやすくなっている。 | 3 | 3 |
| 安全管理・保健指導 | 安全点検を毎月行ったり、活動前に点検をしたりして安全管理に努めた。睡眠中のチェックリストを作成したり、引き続き手洗い・うがい・消毒を丁寧に指導したりした。 | 3 | 4 |
| 研修（資質向上） | 新採用研修を園全体の研修として受け、職員が自らの学びと捉え参加できたことが、チーム力そして質の向上に繋がっている。 | 4 | 4 |
| 情報提供・保護者・地域との連携 | 今年度よりコドモンを導入し、最近では毎日のクラス配信をスタートさせ、よりタイムリーな情報提供に努めた。保護者、地域の方とも良好な関係性を保て、様々な園運営を助けていただいている。 | 3 | 3 |
| 小学校との接続・連携 | 2つの小学校それぞれとの交流計画は年度当初行い、今年度も全て計画通り連携できている。 | 3 | 3 |
| 子育て支援 | 保護者が必要とした時に安心して相談してもらえる関係づくりに日々努力した。 | 3 | 3 |
| 食育の推進（給食） | 「和食の日」には園児も出汁を味わい、保護者へもおたよりで出汁をとることの効果や大切さを栄養士が伝えた。参観日での給食参観後にはレシピの要望があった。 | 4 | 4 |
| 食事の提供（調理） | アレルギー児への除去食や離乳食提供など多岐にわたるが、安心安全でおいしい給食が提供できた。 | 4 | 4 |
| 保育教諭としての自覚と職員間の連携 | いろいろな保育感をもった大勢の職員がいる園だが、園全体を考えて行動できる職員も多く、協力体制が整っている。 | 4 | 4 |

5. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

今年度「心を動かす環境作り～楽しむ・考える・つながる～」を研究テーマに挙げて、3歳以上、3歳未満それぞれの担任が会議を持ち、園児一人一人の発達理解に努めながら、粘り強く物と関わったり、自分の気持ちをコントロールして人と関わったりする力の育ちをゆっくりと見守ってきた。職員が、環境作りに努め、協力して保育することで、園児に様々な体験の場を提供することができるようになってきている。

また、新採用研修を園内研修として位置づけ、1年を通して受けたことが、新人保育教諭だけでなくベテランが自らの学びとして捉え、保育を振り返ることができたことがよかった。評価委員の方からは、「心を動かすとは、具体的にどんな姿か」というところや、「育ちが目に見えるような伝え方」へのご意見をいただくことができた。また、地域の方との交流に対しても、「笑顔」で対応できている様子に評価をいただいた。保護者対応に対しても、「相談したくても忙しくて相談できない保護者に対する配慮」など、改めて対応を見直す言葉をいただけた。

今年度途中より、園のICT化ということで、登降園管理アプリを導入している。アンケートもこの機能を使い実施し、保護者の方から感謝の言葉をいただいたり、アプリに関して「楽になった」などの感想や置き場所などへのご意見もいただいた。当初、評価委員の方からご指摘のあったコミュニケーションの希薄さにも気をつけ、長期欠席児への連絡など日数を具体的に決めて実施している。また、このようなご時世での安全管理についても、気の張った毎日の登降園時、保育教諭の丁寧な対応などの様子に、評価を上げて感想をいただくことができた。

6. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

教育課程・指導計画など園の運営に関することについては、評価委員の方にもわかりやすい資料、説明があると評価しやすいというご意見から、来年度は、定期的に、職員の保育・教育テーマと園児の育ちをお伝えすることとする。保護者、地域の方、評価委員の方などに、地域の中にある園として、いろいろなツールを使い情報発信していきたい。

コロナが5類に移行し、園運営も以前のように戻りつつある中での園行事について、保護者より回数が増減などの意見をいただいた。園児の発達段階に考慮した園行事の考えをまとめ、次年度にはそれを踏まえて実施できるようにしっかりと園内の意見をまとめていくようにする。また、来年度も引き続き、手洗い・消毒などを励行したり、睡眠中のSIDSチェックをしたりなど、園児の安全管理に努めていく。さらに、不審者対策、アレルギーのエピペン使用方法・対処法、AED使用など、関係機関と連携をとりながら安全管理に努めていきたい。

園のICT化についても、評価委員の方より、「利用することで事務量軽減に繋がっているか」を問われた。タイムリーな情報発信に関して、保護者からは「わかりやすい」との評価も多数いただいている。今後も、情報発信は引き続き十分注意して行いながら、iPadを使い効率よく事務ができるような方法を、年度当初には全職員で周知し、体制作りをすすめていきたい。

地域の中のこども園として、地域の方に助けをいただきながら豊かな自然を利用した保育計画を立て、保護者との信頼関係を築くことができるよう努め、幼児期の教育・保育を大切にすすめていきたい。